

令和7年度全国商業経済教育研究協議会 報告書

令和8年3月8日(日)

徳島県立徳島中央高等学校 教諭 谷本 浩志

商業経済教育研究協議会

1 検定各科目について

【ビジネス基礎】 昨年と同様、新学習指導要領に沿って基礎的・基本的事項を中心に出題し、「科目別・項目別出題基準」に沿って問題を作成されている。「ビジネス基礎」の検定取得を契機に、商業経済検定1・2級取得奨励にと考えられている。

商業科目の基礎的な科目として、本文をよく読み、内容を理解したうえで解答できるように作問されており、生徒たちがこの知識を基として、商業科目の発展した知識の習得につながることを期待されている。

【マーケティング】 学習指導要領における目標・ねらいを考慮し、概ね「科目別・項目別出題基準」に沿って出題されている。作問にあたり、科目としてふさわしい内容、文章構成になるように努め、2社の教科書を参考に基礎的・基本的な出題となるよう心がけられ、出題形式に関しては、記号選択問題42問、記述問題8問であり、記述問題については2社の教科書に記載されている用語で出題されている。

生徒に対して、これらの問題を通じて、経済社会や各企業のマーケティング活動に目を向け、常にその変化を意識して欲しいと考えられている。教科書に記載されていない内容に関しては時事問題として出題されており、本文をよく読むことで内容が理解でき、正答が導き出せるように配慮されている。

【商品開発と流通】 学習指導要領における目標・ねらいを考慮し、概ね「科目別・項目別出題基準」に沿って出題されている。作問にあたり、科目としてふさわしい内容、文章構成になるように努め、基礎的・基本的な出題をするように心がけられ、出題形式に関しては、記号選択問題40問、記述・計算問題10問であった。

この科目では、実際に商品開発を行うだけでなく、流通までを見越して実践的・体験的な学習活動を学んで欲しいと考えられており、作問に当たっては、2社の教科書の内容に沿ったものとされている。教科書に記載されていない内容に関しては、思考力を問う時事問題として出題されており、本文をよく読むことで内容が理解でき、正答が導き出せるように配慮されている。

【ビジネス法規】 一昨年度までの「経済活動と法」を承継した科目であり、「ビジネス法規」としては2回目の実施である。全体的に昨年度の難易度を考慮して作問されている。各出題分野から作問され、おおむね「科目別・項目別出題基準」に沿って出題されている。法律は難しいというイメージをもつ生徒が多いと考えられるため、生徒に馴染むような身近な話題や時事的要素を取り入れ、教科書でしっかり学んでいれば解答できるように作問するよう心がけられている。

新領域について教科書の内容を慎重に検討し、生徒が身近に感じられるような作問に心がけられている。今後も、ビジネスをはじめとしたすべての生活に関係性の深い法規について、生徒が一層興味関心を感じられるような作問を心掛ける、ということである。

【ビジネス・マネジメント】 学習指導要領における目標・ねらいを考慮し、概ね「科目別・項目別出題基準」に沿って出題されている。作問にあたり、科目としてふさわしい内容、文章構成になるように努め、基礎的・基本的な出題をするように心がけられ、出題形式に関しては、記号選択問題42問、記述問題8問であった。

この科目の実施は、今回で3回目となり、学習指導要領の「目標」や「内容の構成及び取扱い」に沿うように配慮されており、作問に当たっては、2社の教科書の内容に沿ったものとされている。教科書に記載されていない内容に関しては、時事問題として出題し、本文をよく読むことで内容が理解でき、正答が導き出せるように配慮されている。

【出題された企業・商品】 各検定に次のような企業・商品が事例として出題されている。このような企業や商品について、生徒に興味関心を持たせる授業展開が必要である。

マーケティング：企業（パタゴニア・プーマ・道の駅常総・グレゴリー・ユーチューブ・サントリー・ニトリ・ドン・キホーテ・ジャパネットたかた）商品（ジムニーノマド・インスタ360・プレイステーション）、商品開発と流通：企業（ホテルクス・コクヨ・バンプレスト・マグエバー・トライアルカンパニー）商品（シャウエッセン・節照りたれ・人生ゲーム・ガリガリ君・ゴリラのひとつかみ・クロスブレンドカレー・豆腐バー・あずきバー）、ビジネスマネジメント：企業（コストコ・ソニー・マッシュグループ・アップル・川崎重工・メルカリ）

2 CBT試験化について

【第3級「ビジネス基礎」のCBT試験】 令和8年度(第41回)からは、CBT試験として実施される。令和9年度からは年4回の実施予定となっている。

- 実施期間(令和8年度)：令和9年1月5日(火)～令和9年2月7日(日)
- 試験時間(40分)および出題範囲：変更なし

3 合格率について

【合格率について】 令和5年から7年の検定各科目の合格率について次のように考察した。合格率の差が最も大きく現れたのが「ビジネス基礎」で15.4ポイント、差がもっとも小さかったのが「ビジネス法規」で1.9ポイントであった。詳しくは表のとおりである。ちなみに、第39回の合格率が「ビジネス法規」以外で高くなっている。受験生の数等については大きく変化がないことから、この回の問題傾向に何らかの変化があったのではないかと考えられる。

合格率における協会の考え方としては、ビジネス基礎が80%、それ以外が50%を基準に設定しているが、ビジネス法規以外は50%を大きく上回っている。このことについては、問題内容が容易だったのではなく、教員の熱心な指導の結果という見解である。

回\科目	ビジネス基礎	マーケティング	商品開発と流通	ビジネス法規	ビジネスマネジメント
第38回	69.8 ↓	65.1	---	52.1 ↑	58.8 ↓
第39回	85.2 ↑	69.5 ↑	77.2 ↑	50.5	73.3 ↑
第40回	73.6	62.6 ↓	75.0 ↓	50.2 ↓	69.7
差	15.4	6.9	2.2	1.9	14.5